



● 今月の注目記事 ●

P 1～P 6 2005年 2006年度 まち・コミ事業報告

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>

- 3月10日(土) 13:00～ 第18回 御蔵学校
- 場所：まち・コミュニケーション事務所
- 復興まちづくりは今 ～震災12年目、御蔵から「復興まちづくりを考える」
- ・講演 専修大学文学部人文学科社会学教授 大矢根淳氏
- ・事例報告 元御蔵通5・6・7丁目町づくり協議会会長 田中保三氏
- ・パネルディスカッション
- 岡本碩也氏(西須磨まちづくり懇談会代表)
- 清水光久氏(真野まちづくり推進会事務局長)
- 田中保三氏
- コメンテーター 宮西悠司氏(まちづくりプランナー)

※詳細はチラシをご覧ください。

2005年 2006年度 まち・コミ事業報告

まち・コミ設立から10年。皆様のご協力により、本年度も多くの事業に取り組むことができました。2005、2006年度の事業を報告致します。まち・コミを応援していただき、ありがとうございました。

事業は、以下を柱にしています。

1. 神戸市長田区御蔵地区の支援共同事業
...住民と共に考え・試み・学ぶ現場
2. 今までの活動を活かした取り組み
...他地区でも、出会い・考え・実践する
3. 情報共有
...震災やまちづくりを伝え・共感し・学ぶ

(併せてまち・コミ事業計画下記を参照下さい。<http://machi-comi.homeip.net/m-comi/magazine/0504/0504-1.htm>)

事業とプロジェクトの旬の時間を合わせる複雑さに事務局が忙しく、振り返る機会も怠り、皆様への報告ができなかったことをお詫び申し上げます。2006年末には、支援し、共にまちづくりに取り組んできた御蔵通5・6・7丁目町づくり協議会が解散となり、改めて、プロジェクトだけではなく、まち・コミ(まちづくり)としての価値観を共有し、話し合

う場を創り、違いを認める必要性を強く実感しました。

みなさまと共に、また、みなさまの応援の元、多くの事業ができ、出会いがあるのも、まちづくりの活力となります。

震災から12年、御蔵は大きな転換点を迎えました。他地区へ向けての活動や情報を共有し、御蔵地区の活動が少しでも活かせるようしっかり御蔵を見つめ直さないとはいけません。そのためにも初心に戻り、活動内容を振り返るための、事業誌等の必要性を感じるようになってきました。もう一度まちづくりを振り返り、進めてきました。良く見ていただき、叱咤激励よろしく願いいたします。



2006年8月専修大生復興誌ヒアリング

神戸市長田区御蔵地区の支援共同事業
...住民と共に考え・試み・学ぶ現場

★事業1：町づくり協議会と自治会の運営支援

自治会の目標である地域親睦、まち協の目標である地域活性化を目指し、共に取り組んで参りました。両組織において、資料や広報誌の作成補助、印刷、助成金など各種情報提供、事務連絡、会議の事前打ち合わせ等の補助を行ってきました。

町の課題はまだ多いと認識し、まち協総会では、町の活性化に関する議決事項に基づき、区画整理跡地の数筆一括販売への異議申請（住みたい個人が土地を買う機会を失う恐れがあるため）、兵庫県が復興基金を利用したにぎわい助成申請等の支援を行いました。ところが、共に歩んできた自治会より反対にあいました。月刊まち・コミ07年2月号の通りです。

被災地地区でも、まち協の復興まちづくりの12年の蓄積がまさに今、地域活性化に活かせる時が来ています。今回の御蔵のまち協解散のように、まち協の存在が、「(ハードの)復興まちづくり」のためという意識が消えず継続が難しいのは、なぜでしょうか。

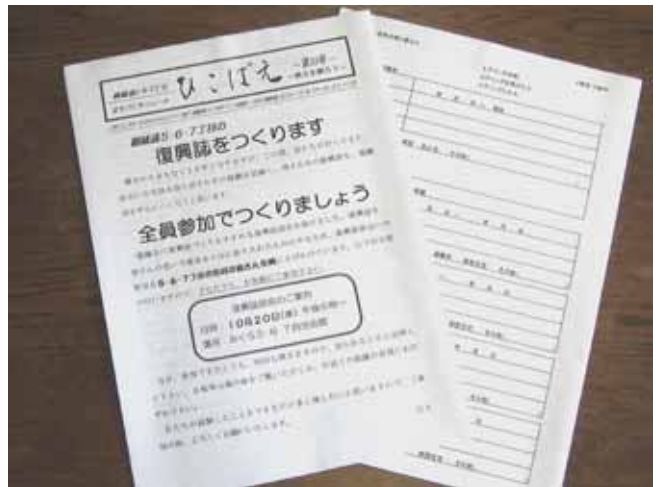
町並みはきれいになり、地域の課題が一目では見えにくく、近頃は、両組織が機能しづらくなったようです。2006年夏には、自治会総会で議決された「みすが盆踊り大会」まで、内容や日程を途中で変更されてしまい、結局、有志による実行委員会で、開催せざるをえませんでした。

まち・コミは今こそ初心に戻り、もう一度住民一人一人のニーズを探り、まちづくりの必要性を再確認するところから始めないと改め、地域の方と会えば少しの時間でもしっかり話をするようにし、事務所に来られる方とも、事務所が開いている限りは、

しっかり時間をとるようにしてきました。

★事業2：まちの復興誌作成支援

地域で行われるまちの震災の記録「復興誌」づくりの支援です。現在、住民のヒアリングを進めています。一人でも多くの声を集めるため、手記を募集したり、手記が難しい方には、専修大学文学部人文学科社会学大矢根研究室と神戸大学工学部建設学科塩崎研究室のヒアリング協力により、手記の作成を支援しました。おかげさまで手記数は、30になります。



復興誌 チラシとヒアリングシート

★事業3：御蔵復興調査・空き地調査

御蔵のまちのこれからを考えるための調査・研究を行いました。町を見ながら再建状況を俯瞰する資料の作成を行いました。また、神戸大学工学部建設学科塩崎研究室の院生さん3人が、それぞれの論文にて御蔵のことを取り上げてくださっています。



2006年8月8日 みすが盆踊り大会



掲載誌 『復興まちづくりの時代』

調査・研究成果は下記へ報告・執筆させていただきました。
季刊家計経済研究(2005年春号)
月刊区画整理「まちづくりと学習」(2006年2月号)
造景双書「復興まちづくりの時代」(建築資料研究社)

★事業4：地域福祉の検討支援

震災から12年、人は戻ってこられず、地域経済の将来は……。神戸では、独居死が2006年1年間で66人にのぼりました。まだ高齢者の住まい方が問題になっています。

その課題に対し、共同再建住宅みくら5の一階にコミュニティスペース「プラザ5(ファイブ)」を設置して、7年。そこでは、住民有志が「地域のことは地域で支える」と、高齢者のケア等多くの事業や行事を行ってきました。その地域福祉力と復興まちづくりのネットワークを活かし、雇用を創出し活気ある地域を取り戻し、震災以降町を離れざるをえなかった高齢者等の方々再び当地域に戻ることができ、自分らしさを活かしながら住み続けられる高齢者の住みやすい環境作りとその受け皿となる将来の地域福祉を目指した24時間、365日見守り付き賃貸住宅「(仮)みくらハウス」の建設のため、理解ある地主さんはじめ専門家の方々の協力を得、進めています。

まち・コミは、多くの関係者の調整、月1回の打ち合わせ・会議の事務局機能の補佐を役割としました。

共に、尋常小学校6年生まで「唱歌の会」(6回)と引き続き「御蔵古民家愛唱歌の集い」を催しました。そしてもう一つは、河内音頭プロデューサーの橋本正樹さんにお世話になり、各界のスペシャリストをお招きする年4回のお話の会「御蔵百聞くらぶ」を開催。話し手は、唐十郎氏(作家・演出家・俳優)に始まり、鉄砲光丸師匠(河内音頭 鉄砲節)、岩田健三郎氏(版画家)、もず唱平氏(作詞家)、中井久夫氏(精神科医)、山田脩二氏(瓦師・フリーカメラマン)、丹下セツ子氏(女優)に及んでいます。震災10年、心の復興を目指しました。

コーディネーターや出演者や参加者の方々に支えられ、まち・コミは事務局を務めました。



2006年3月12日 百聞くらぶ(もず唱平氏)

みくらハウス構想図(復興まちづくりを生かした)



今までの活動を活かした取り組み
...他地区でも、出会い・考え・実践する

★事業6：東大阪若江岩田駅周辺のまちづくり支援

2004年1月から東大阪若江岩田駅周辺のまちづくり支援に、特定非営利活動法人 大阪夢・まち案内人と共に取り組んでいます。まち・コミは、震災で学んだ住民主導のまちづくりの教訓を、できるだけ他地区の方とも一緒に考え、取り組む機会を持ちたいと考えています。まず私たちが地域状況等を学び、徐々に自治会や地域住民との意志疎通をはかることを目標にしてきました。

支援委員である小島孜教授(近畿大学建築学科)の協力を得、2006年3月には設計課題や、それによるまちへの提案発表、ほか防災講演会を2回行いました。その後は、地域住民のニーズを探ろうと、地域を訪れていますが、まだしっかりと息を

★事業5：集会所の運営と利用の支援

古民家移築集会所という資源と建設プロセスを活かした運営管理ができるよう、地域住民と取り組みました。この古民家で古き良き文化を残したいと、歌手の李浩麗さんとピアニストの大迫めぐみさんと

合わせられていないというのが現状です。小島先生を通じて近畿大学学生有志でつくる「建築未来デザイン会議」と知り合うことができ、現在、学生は学生の立場で、何ができるか模索しています。

2006年12月17日に、地域と商店街の歳末チャリティーイベントに学生達が、建築学科ならではのセンスの良い屋台を出し、マフィンを販売し、チャリティーに協力しました。

まち・コミは、今まで若江岩田関係で知り合っただんなんな資(志)源がうまく協働できるよう、模索しています。しかし学生は、地域で何ができるか、それぞれの立場で真剣に模索しています。こちらも初心を忘れず、まち・コミの今後として緊張が走ります。



2006年2月5日 東大阪学生発表会

★事業7：台湾古民家移築事業

(月刊まち・コミ 2005年7月号参照)

<http://machicomiblog42.fc2.com/blog-entry-104.html>

御蔵への古民家移築による集会所建設では、参加者が生き生きし、貴重な体験をすることができました。台湾被災地交流の中で、是非台湾にも御蔵のようなコンセプトを持った古民家集会所が欲しいという声があり、第2弾に取り組んでいます。福井県大飯町にあった古民家(水上勉氏の父、覚治氏が棟梁として建てた。築90年)を、2004年8月に55名の学生(台湾の若者8名を含む)が解体しました。

幾度と打ち合わせに訪台しています。2005年5月、被災地交流なので被災地彰化県にと準備をしていましたが、台湾の被災地や陳基南氏(前文化建設委員会主委(日本の文部科学大臣))等から、「古民家移

築は被災地という主旨は理解できるが、日本の伝統技術が多く詰まっているので、できれば人が多く訪れる場所に移築してほしい」との話がありました。それから、台湾のパートナー邱明民さんの土地探しが始まりました。

2005年5月、台湾全島の社区総体營造(まちづくり)関係者が出張で御蔵地区を訪れ、その際に古民家移築の応援を依頼しました。2005年8月、良い土地がなかなか見つからず、台湾総督府(日本でいう総理官邸)前で、「徴求土地500坪(500坪の土地求む)」の看板を持ちアピールしました。台湾での木材工場で、補足必要な木材調達や木材の湿気対策加工等の打ち合わせをしました。2005年12月、約15名でコンテナに木材を詰め、神戸港より輸出。台北県政府で説明会。2006年1月、水上路子さんのご協力により頂いた水上文庫を持ち訪台し、賛同者募集のため事業説明会。2月、台湾での建築雑誌「建築師(中華民国建築師公会全国聯合会雑誌社発行)」に掲載されました。台北県淡水鎮の鎮長が御蔵に来られ、趣旨説明。4月に鎮議会で移築予定地が「平和記念公園整備」で承認されました。8月、日本側の学生や応援団に説明会。2007年1月訪台し、建設後の運営や建設資金について、募集をはじめました。



台湾での土地探しの様子

★事業8：各被災地における救援・交流活動

日本各地区で災害が起こる今日、神戸での経験を生かし、復興まちづくりに向けて、被災地の住民同士の交流を大切にしたい。交流活動を通じて感じることは、被災経験の共有・共感から、復興やまちづ

くりの力が生まれているということです。復旧支援だけでなく、復興支援の大切さを感じています。

2004年の台風23号で堤防が決壊し、まちが流された出石町鳥居地区にて、まちの活性化とコミュニティ再生のシンボルとしての、有機農法による市民農園再建を励ますための活動しています。

今までは、出石鳥居地区の住民の計画を少しでも継続のためのにぎわいづくりに、3,000㎡の農地の整備し、地域を越えて相互扶助で神戸・出石の方と一緒に農業をしてきました。

週2回(片道約3時間)の出石訪問・農作業で、参加者は、延べ180人。海外から御蔵に災害の視察で来られた方も誘いました。どうしても人手が必要な時は、出石の人も作業に参加してくだることもあります。

ほとんど畑に緑を絶やさず、じゃがいも1.5ton等を生産。交通費や資材費がかかるのを、全国の応援団に購入という形で応援していただく(延べ約200人)等で、継続活動することができました。2006年1月には、“防災とボランティアのつどい(内閣府主催)”で発表の機会を得ました。

今後活動を続けていく上では、神戸からの移動と農作業の時間とコミュニティ支援のバランスを、どのようにとっていくかが課題です。おかげさまで、市民農園施設は、3月末に再建されます。



出石での農作業

情報共有

…震災やまちづくりを伝え・共感し・学ぶ

★事業9：研修・勉強会

震災復興の課程で学んだことを少しでも多くの方に伝え、分かち合うために、研修や勉強会を行って

います。

御蔵学校

被災地域御蔵の現場だからこそ学べるテーマを取り上げています。

2006年3月、第17回御蔵学校は、「阪神・淡路大震災11年まちの復興を見て、そしてこれからできること」をテーマに、都市計画事業決定の初動期について振り返り認識し、これからできることについて学びました。(講師：山口憲二氏(まち計画山口研究室) 塩崎賢明氏(神戸大学教授) 内田恒氏(元神戸市都市計画局区画整理部長) 竹内千恵子氏(前我が町の会・地元住民) 吉田昌氏(アーバンプランニング研究所・御蔵地区地元コンサルタント))



第17回御蔵学校

出向講演

震災やまちづくりの現場の状況、教訓を伝えるため、まち・コミスタッフや住民、まち・コミ関係者が伺いました。

2005年度

- ・講演「地域社会における防災とボランティア」主催：財団法人兵庫県職員互助会(但馬)
- ・講演「阪神・淡路大震災以降の都市再生と協働の仕組みの課題 95年震災後10年の復興過程に学ぶ」主催：東京経済大学
- ・講演「地域社会における防災とボランティア」主催：財団法人兵庫県職員互助会(丹波)
- ・講演「地域社会における防災とボランティア」主催：財団法人兵庫県職員互助会(中播磨)
- ・講演「震災をきっかけに生まれたものについて/「ひとのちから力」でできたこと」主催：神戸大学六甲祭実行委員会室内企画局
- ・講演「防災と食料を考えるフォーラム」～ごはんを食べよう国民運動大会in兵庫～主催：ごはんを食べよう国民運動推進協議会

- ・講演「まちづくりと学生」講演主催：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター
 - ・講演「古民家移築集会所」主催：兵庫県建築士会
- 2006年度
- ・講演「震災から学んだこと」主催：長岡第2中学校
 - ・講演「人権教育」主催：加東郡
 - ・ラジオ出演：毎日放送ネットワーク1.17
 - ・講演「避難所での暮らし方」主催：和歌山県広小学校
 - ・講演「防災まちづくり」主催：東京都立世田谷北沢小学校
 - ・講演「御蔵の話を事例に大学で学べること・休学・現地御蔵学校」主催：埼玉県立新座北高等学校
 - ・講演「避難所から復興を考える」主催：杉並区
 - ・講演「防災まちづくり」主催：丹波市立大路小学校
 - ・パネルディスカッション「協同の価値～震災後の検証 真の復興・本物の再生」主催：全国協同集会実行委員会
 - ・パネルディスカッション「地域に生かす生涯学習」主催：神戸県民局 神戸生活創造センター
 - ・講演「災害にも強いまち・ひととは」主催：(特活)まちなか研究所 わくわく
 - ・講演「若者の参加」主催：参加のまちづくり研究会/世田谷

地域間交流として、防災講演会と長田名物そば飯を焼きに、早稲田地球感謝祭2006(主催：早稲田大学周辺商店連合会) 大久保祭り(大久保まつり実行委員会)に行きました。早稲田まちづくりサークル まっちワークや、大久保まちづくり関係者と協同行うことができました。



2006年9月23日 そばめし隊 in 早稲田

視察受入

自治会・まちづくり団体・NPO職員・ボランティア・自治体職員・社会福祉協議会・研究者・大学研究室等の受け入れを御蔵地区で行っています。

主な視察団体とテーマ

富山県少年サッカークラブ「震災体験学習」(株)山田組(建設

業)「震災時における建設業」 徳島県神山町人権大学受講生「阪神・淡路大震災現地研修」 全国私立保育園研究大会「震災復興状況の視察案内」 21世紀の日韓こども通信使「震災体験学習」 アジア防災センター「被災地見学」 徳島県教育委員会「大震災と長田地区のまちづくりに学ぶ」人と防災未来センターボランティアコーディネーターコース「フィールドワーク 御蔵の復興課程と課題」 芝浦工業大学水口研究室「震災復興の進行状況とその課題」 特定非営利活動法人日本NPOセンター「中国の日本NPO法制度視察研修」 松本市自主防災組織活性化部会委員「阪神・淡路大震災現地研修」いりあい・よりあり・まなびあいネットワーク「コミュニティに根ざした防災活動と、それを推進するNPOの運営について(インドネシア)」 篠山市自治会長「復興に向けたまちづくりについて」 東京都生活協同組合連合会「被災地まち歩き視察～12年経った被災地の現状と課題」 レスキューストックヤード「被災地研修」特定非営利活動法人日本NPOセンター「地方自治体と市民社会組織との協働関係」イラク市民社会支援に係る研修」人と防災未来センター「JICA中南米地域防災対策研修」日本建築学会「震災復興まちづくりウォーキングツアー」

修学旅行受入

住民とボランティアが協働し、修学旅行生への被災体験研修を行っています。2006年度は、27校の約2200名の児童、生徒を受け入れました。また、さらに学習内容を充実させるために、語り部さんたちの勉強会を開催し、人と防災未来センターの見学や、講師を招いての勉強会などを行いました。また、平成18年度神戸ソーシャルベンチャーアワード(神戸市産業振興局)から審査員特別賞、防災教育チャレンジプラン実行委員会(林春男委員長)から特別賞をいただくなど、外部からも高い評価をいただきました。ありがとうございました。



語り部さんの勉強会

各事業とも多くの方のいろんな形の応援で行うことができました。ありがとうございました。



まち・コミおすすめBOOK 「いのちが震えた」

えと文：岩田健三郎
発行：小さな出会いの家
定価：1,500円（本体1,456円）



本書は版画家で画家でもある著者が、戦前からの住宅地である須磨の旧市街地に旧知の書店や喫茶店を訪ね、震災10日後に入った様子を、絵解きで見せ、読ませるものである。絵の中に一匹の猫がしばしば出て来る。猫の目線で、当時の生活史とも言える貼り紙を沢山描き出している。体験した者にうんうんと肯ける、あのときの人の心の動きがひしひしと伝わり、著作に込めた、押さえた感情をうかがい知ることが出来る。JR須磨駅から歩き始め、須磨寺、月見山と、旧西国街道や山陽電車の線路を伝って歩き回る。須磨寺では「ちょっとそっちを持ってくれ」と声を掛けられ、ビニールシートに包まれた片方をかかえて、それが遺体だと分かり「テレビに死体は出てこうへん。それにこの現場の臭いも伝われへん。死者何人としきりに数だけは伝えられるけど実感あるのやろか」と疑問を呈す。須磨海岸に出て、子どもたちの顔をスケッチし、欲しいとせがまれ手渡す。引率の滋賀から来た学生に「初めて子どもたちを外に連れ出した「日がたつにつれて無力感がする」「誰かにしゃべりたかった」とショックを告げられる。次の日、一万人分のコーヒー豆、酒蔵の水や器具を用意して、姫路の仲間と神戸に向かう。夜明け頃から東須磨小学校の校庭で、コーヒーが始まる。「へえ！ コーヒーか。ありがたい」と、コーヒー好きの神戸っ子はどれ程喜んだことか。「お日さんの下に出て来たのはあの日以来はじめて」と云う人にもびっくり。コーヒーにホッとした神戸っ子。それを見てホッとした著者。著作を見て読んで、ホッとしたわたくし。(田中)

大地のつぶやき

疎開先の記憶と学童時代Ⅲ

四年生の担任は天王寺師範出たての辻岡先生。若くて情熱的な先生との二年余は私の人生の根幹をなすものが育まれた様に思う。天気の良い日は学校の向かいにある大聖勝軍寺の境内で聖徳太子の話、そして蘇我氏と物部氏の争いの話を聞いた。さらに授業中にも壺坂靈験記のお里・沢一夫婦愛の物語や傾城阿波の鳴門のお弓と娘である巡礼お鶴の親子の名乗り出来ない切ない別れとその後の悲劇を聞き、夏になると東海道四ツ谷怪談のお岩が障子に映りヒュードロドロドンの語りや番町皿屋敷お菊が「一つ、二つ……、取ったお皿を返しておくれ！」と井戸の中で叫ぶ声音に背水を冷やし、耳なし芳一や雪女の話に胸が痛んだ。冬には赤穂義士討入り話。春の遠足が天保山から神戸港、湊川神社、湊川公園と決まるや千早・赤坂城から桜井の駅父子の別れ、湊川の合戦を熱く語ってもらった。浄瑠璃や怪談話、戦記物語の中に人はどう生きるべきかの教訓が込められていて、物質的には極めて乏しいこの多感な少年期に精神的に実に豊かなものを植えつけられ多くのことを学んだ。

先生が風邪をこじらせ少し休まれた間、隣の組と一緒に青野先生と言う女性の先生が山本有三の「路傍の石」を連続して朗読して下さった。自分が鉄橋の線路にぶら下がっているかの錯覚をした。吾一少年に没入してしまつて大いに感動を覚えた。それ以後自分で本を読むようになった。クラスの子四、五人でおてんばな少し足をひきずる癖のある子のまねをして泣かせたことがある。横並びにされて、先生のビンタを食った。「我が身をつねって他人の痛さを知れ！」と諭され、私の方に向き直り既に病の床にあった父を引き合いに出され「こんなことをしてお父さんが聞いたらどれだけ悲しむのか分かってるのか？」と叱られ、父親を思い出し急に涙が出て、泣いたのが昨日のように鮮明に思い出される。い、師に恵まれたい、時代だった。

株式会社兵庫商会 田中保三

まち・コミ活動報告

2/1 ~ 2/22

- 2/1 JICA研修受入
- 2/2 月刊まち・コミ発送作業
- 2/2 まち・コミサポーター打ち合わせ
- 2/3 出石市民農園今後の打ち合わせ
- 2/5 東大阪打ち合わせ
- 2/7 御蔵学校講師打ち合わせ
- 2/9 修学旅行下見(大津小学校)
- 2/11 関東都市学会ニュース発送作業
- 2/14 スタッフ打ち合わせ
- 2/14 みくらハウス福祉事業部
- 2/14 御蔵学校講師打ち合わせ
- 2/17 防災チャレンジ報告会
(修学旅行生への学習について)
- 2/19 修学旅行下見
(名古屋城山中学校)
- 2/19 まち・コミ打ち合わせ

ご支援、ありがとうございます。

2/1 ~ 2/16

賛助会員(新規・継続)

猪谷善久(大阪府) 大西泰弘(香川県) 奥村忠俊(兵庫県) 辻晴久(兵庫県) 瀬戸本淳(兵庫県)
 遠藤勝裕(埼玉県) 原辺智子(東京都) 池田浩敬(静岡県) 津田四郎(兵庫県) 勝川喜昭(奈良県)
 遠藤淳子(東京都) 舟橋國男(大阪府) 藤田弘夫(神奈川県) 吉田昌(大阪府) 角谷陽子(大阪府)
 高橋祐子(大阪府) 森敏昭(兵庫県) 藤村晴彦(兵庫県) 岸岡孝昭(兵庫県) 中村實(東京都) 谷川一成(兵庫県)
 池田寛(香川県) 池田寛(香川県) 陳浩明(大阪府) 垂水英司(兵庫県) 上田耕蔵(兵庫県) 松田悦子(兵庫県)
 石本雄二(兵庫県)

協力

社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県) 【順不同・敬称略】

新規賛助会員募集&更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し金銭面で支援していただいています。まち・コミを運営していくにあたって、最低限必要な費用を助成金だけでまかなうには、限界があります。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は1年更新とさせていただきますので、現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。

賛助会員になると...

本誌「月刊まち・コミ」が送付されます。
 まちづくりについての自由闊達な情報交換・意見交換の場(メーリングリストなど)に参加できます。
 まち・コミ関連の催しへの参加料が割引されます。
 まち・コミ関連の出版物の購入費が割引されます。

まちづくりなどに関する様々な相談に、まち・コミスタッフが応じます。

よろしくおねがいいたします。

編集後記 修学旅行で神戸を訪れる、小・中・高校生への震災学習が軌道にのり、再来年までご予約をいただいているほど。より充実した内容にしていきます。(戸)

年会費

個人・法人 年間5000円
 学生 年間3000円

郵便振替口座番号

00950-3-42788

口座名称

「まち・コミュニケーション事務局」

2007年3月1日発行	
編集/発行 まち・コミュニケーション	
定価 1000円	
御蔵事務所	〒653-0014
神戸市長田区御蔵通5-5	
TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961	
東京事務所	〒162-0052
東京都新宿区戸山1-24-1	
早稲田大学文学部浦野研究室内	
神奈川事務所	〒214-8580
神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1-1	
専修大学文学部大矢根研究室内	
e-mail m-comi@bj.wakwak.com	
URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/	